

はじめに

発達の弱さや障害がある子どもたちの支援に携わっている方の悩みや困りごとが、少しでも解決につながるようにしたいと思い、この本をつくりました。

ここには、子どもの育ちをサポートするヒントがたくさん盛り込まれています。

一つめに、子どもの育ちを見る目、子どもの発達について、どう考えるかということ。本書を通じて発達のすじみちや障害の特性を知るとは、子どもについての理解を深めることになるでしょう。障害のある子どもを育てているパパやママの気持ちや悩みに寄り添った支援をするために、保護者の気持ちや悩みについても紹介しています。

日々、家庭で育てにくい子どもとつきあい、子育てに悩んでいる保護者にも、読んでいただきたいと思っています。わが子の発達や障害、療育を理解し深める助けにもなれば、なによりです。わが子が発達障害と診断され、途方に暮れてインターネットで情報を集めているパパ、「ひよっとして、うちの子、発達障害かもしれない」とわが子の育ちに不安を抱えているママ、子育てには不安がつきものです。山ほどある本やネットの情報などにふりまわされなくて、子どもにストレスをかけずに、子どもの成長につながる子育てをいっしょに考えていきましょう。この本は、そんな子育てにつながる適切な支援を紹介しています。

子どもたちには、家庭や保育園、幼稚園、学校で「しなくてはいけないこと」がたくさんあります。パパやママも、家庭で子どもに「させなければいけないこと」でいっぱいです。

子どもに発達の弱さや障害があることがわかると、「もつとさせないとみんなと同じようにできないのでは」とあせりを感じることでしょう。でも、がんばってさせようと思えば思うほど、子どもは「イヤー!」と、いうことを聞いてくれません。そんなとき、インターネットで「発達障害」というキーワードや困りごとを書き込むだけで、発達障害の説明や「お子さんに合った療育」という言葉が出てきます。そこにはさまざまなトレーニングが紹介されており、子どもに合った療育を選ぶことは容易ではありません。とりあえず見にいこうかと思うこともあるかもしれませんね。

でも、子育てで「いま」困っていることを解決しよう、子どもの「できないこと」を「できるように」ということばかりを目標にすると、肝心の「子どもの姿」や「子どもの心」を見る目がくもりがちになります。その結果、子どもにがんばらせ過ぎて、発達の芽を摘んでしまうことにもなりかねません。

二つめに、じゃあ、どんなところに通ったらいいか、どんな過ごし方をしたらいいか、事業所の取り組みを考えたいと思います。子どもの発達や障害特性に合った、無理のない楽しい時間を過ごせる療育について、もつと知りましょう。

発達が気になる子どものための療育の場としての児童発達支援事業や放課後等デイサービス

の事業所が次々と立ちあがっています。保護者が事業所を選ぶとき、どこが子どもの力を伸ばしてくれるのか、子どもの居場所としてふさわしいのかがわかりにくくなっています。

また職員の方の中には、子どもとかかわることのなかった職から転職して、障害児支援の分野で新しく働きはじめた方もたくさんおられます。職員研修を受けて子どもの発達や障害特性の知識や情報は得られても、実際、担当する子どもにどう働きかければ力を伸ばすことができるのか、保護者の要望に応えることができるのかと、悩んでおられる方も多いと思います。

児童発達支援や放課後等デイサービスでは、個別支援計画や相談支援の利用計画など、子どもの課題を文字化することが増えています。また保護者も契約の際に計画の説明や理解してサインする機会があります。「よくわからないから適当に署名」ではなく、子どもにとって大切なことがちゃんと書かれているかを考えながら、契約することが必要です。事業所が、いや計画をつくるあなた自身が、子どもの姿を反映した個別支援計画をつくりたいと思ったときに役立つ内容を盛りこみました。

子どもの発達や障害特性を深く理解し、楽しい遊びを通して、身体を使い、意欲やコミュニケーションの力を育てるために必要な療育が広がっていくことを願っています。